

2020 年度 公益財団法人会田病院 事業計画

〔基本目標〕

1. 良質な医療を安全に効率よく提供できる体制の確立
2. チームアイダひとり人の人間力向上対策
3. 経営基盤の確立
4. 病院内各部門の横断的連携強化によるチーム医療の推進
5. 災害に強い体制整備

〔重点目標〕

1. 法人全体（各事業部門共通）

- 1) 公益財団法人の組織の確立
 - ・ 法人組織運営の実務機能を整備及び向上させ、組織力の再構築を図る。
 - ・ 将来の医療・介護環境の変化に対応できるよう、中期計画の実現に向け継続的に当法人のあるべき姿、役割、方向性を検討する。
- 2) 職員就労環境の整備と人材育成
 - ・ 社会人、医療人としてコンプライアンスに高い意識を持ち、自ら気づき、考え、話し合い、行動する自律した人材育成をする。
 - ・ 職員の多様な雇用形態や採用戦略の見直しを行い、人材確保を強化する。
 - ・ 職員が心身共に元気に働ける病院を目指し、働き方改革の実現に向けた取組みをする。
 - ・ 職員満足度調査を実施し、就労環境の向上に取組み、働きやすい環境づくりを推進する。
- 3) 経営基盤の安定化
 - ・ 職員全員が経営に参画し、数値目標達成に向けた行動計画を策定し、PDCA サイクルを意識し取組む。
 - ・ 効率的・効果的な業務運営の改善を図り、自律性・機動性・コスト意識を持って費用削減に取組む。
 - ・ 設備改修等及びBCPを整備し、災害に強い体制作りに取り組む。
- 4) 地域に貢献する事業
 - ・ 地域密着型病院づくりを目指し、定期的交流事業を行い地域住民へ還元する。
 - ・ 各学校・施設・団体等へ健康アドバイザー活動を積極的に取組み、医療・介護・福祉の知識の普及や健康増進に対する啓蒙に努め、地域包括ケアシステムの基礎づくりをする。
 - ・ 寄附をしやすいしくみを作り、寄附を地域に定着させる。

2. 会田病院

- 1) 診療環境の充実
 - ・ 「地域医療構想」を踏まえ、病床機能分化・連携を推進し、患者の病態にふさわしい効率的・効果的な病床運用を行い、地域のニーズに応じた診療体制を構築する。
 - ・ 救急患者の受入を積極的に行い、地域住民が安心できる医療を提供する。
 - ・ 健康増進・予防医療については、行政や協会けんぽ等との連携を強化し、人間ドック及び特定保健指導の受診率向上を目指す。
 - ・ 病院、行政等へ訪問強化及び近隣医師との懇談会を実施し、病病連携・病診連携・病介連携を強化する。

・

2) 安全で良質な医療サービスの提供

- ・ 医療安全・感染対策を中心に、マニュアル整備・事例分析・院内巡視・業務改善等に取り組み、患者の安全を最優先した質の高い医療サービスを提供する。
- ・ 他職種とのチームコミュニケーションを向上させ、横断的連携強化によるチーム医療を推進する。
- ・ 診療報酬改定等の状況変化と現状分析を的確に行い、取得・維持、見直しを図り医療の質及び収益を向上させる。

3) 職員の教育及び資質向上

- ・ 患者の病態を正しく把握できる医学的基礎知識を身につけ変化にすばやく対応できる能力を獲得し、専門性が高く地域に貢献する医療人へ育成する。
- ・ OJT（職場内教育）、OFF-JT（職場外教育・研修）、自己研修等に向けた職員の研修支援を充実させる。
- ・ 大学・専門学校等の実習等の受入れを行い、指導能力を高める。

3. すみれ訪問看護ステーション

- 1) 在宅におけるターミナルケアに向けた体制づくりを整備し、地域の関係機関や利用者又はその家族と連携を密にし、ACP（人生会議）の情報収集をして、希望に沿うように努める。
- 2) 医療機関と在宅医療の連動した、在宅看護・介護支援システムを推進し、看護とリハビリを含めて、きめ細やかな対応と質の高いサービスを提供し、選ばれる訪問看護ステーションを目指す。
- 3) 訪問経路とスケジュールを見直し、効率的・効果的な訪問を実施する。

4. すみれ介護相談センター

- 1) 利用者のニーズに応じた適切なサービスの提案と立案、及びサービス提供が適切に実施されるように、利用者又はその家族と各事業所との連絡調整を十分に行う。
- 2) 介護支援専門員の質の向上を図り、医療機関との連携強化し、入退院時連携を充実させる。

5. 会田病院ヘルパーサービス

- 1) 登録ヘルパー等介護職の人材確保が困難な状況及び医療機能の強化を踏まえ、事業所業務の一時休止を検討する。

6. 会田病院指定居宅療養管理指導事業所

- 1) 居宅訪問利用者の適切な管理及び指導を行い、療養生活の質の向上に向けたサービスを提供に努める。

7. 会田通所リハビリテーション

- 1) 地域のニーズを適切に把握し、地域が必要とする介護サービスを模索し、様々な変化に対応した受け入れ体制を整備・検討する。
- 2) 会田通所リハビリテーションの特性・特徴を生かした介護機能としての情報発信を強化し、利用者確保に努める。
- 3) 事業所研修や外部研修による情報を共有し、介護及びリハビリテーションの質向上に努める。